

1日目③旭木の駅プロジェクト



間伐して伐り出した薪を、軽トラに積み込み出荷するところを取材。



1日目④宇宙（そら）の家



電気代ゼロ（オフグリッド）で暮らす宇宙（そら）の家を訪問。小学校1年の娘さんが、薪風呂に火を付けるところを撮影。

2日目①福蔵寺・お茶会



毎月1回、地域の若い女性たちが、おやつを持ち寄りおしゃべりする『お茶会』を取材。取材陣は、こんな静かな山奥で子どもたちの笑い声が響いている、と感激していました。

← (次ページに続く)

1日目①てくてく農園



旭地区に1ターンし農業を営む横江夫妻を訪問。



夫妻が販売している名古屋コーチンの平飼卵を丸飲み！「牛乳の味がする！」と絶賛。



1日目・昼食



お昼には、地元名物五平餅を体験。

1日目②半農半林塾



冬の時間を活かして、山仕事を学ぶ『半農半林塾』を取材。



韓国国営放送（KBS）が農山村の各地を取材



旭・足助

ASAHI・ASUKE

2月23日〜25日にかけて、韓国国営放送（KBS）のドキュメンタリー取材スタッフの皆さんが、取材に来られました。近頃の日本の若者たちに見られる、農村回帰のムーブメントについて、テーマを「スローライフ」として制作すること。韓国では競争社会が激しく、「スローライフ」が浸透していないのだとか。豊田市は世界から見ると「工業のまち」。つまり経済競争のまち。そのまちながなぜ都市と農山村の交流に力を注ぐのか。その疑問に答えるために、センターが各地を案内させていただきました。

農山村のここが

好きなんでもSHOW

このコーナーでは、おいでん・さんそんセンターの活動を支える「プラットフォーム会議」のメンバーが、農山村で気に入っている「場所・コト・モノ」などについて語ります。

豊田市矢作川研究所 主任研究員

洲崎燈子



今日の語りすと

東京で大学院生をしていて、初めて植物調査のアルバイトで矢作川に来ることになった時、「大企業の城下町だし、きっと大した川じゃないだ

ろう」と思いました。ところが現地に出向いて岸辺に緑があふれる自然豊かな川を目の当たりにし、驚きに打たれました。生まれ育った都内では、川といえば住宅地の中を流れるコンクリート三面張りの排水路だったので、こんな川が流れる町に住み、川を泳ぐアユについて熱く語る住民の存在は私にとって新鮮でした。矢作川の上〜中流では水辺愛護会の方々が、護岸のため河辺に植えられた竹の間伐や草刈り、ゴミ拾いの活動をして下さっています。美しく整



備され、風の吹き抜ける河辺は、今も私の心を癒やしてくれる第二の故郷。里川、の光景です。

農との関わり程度7類型、農プラスαのビジネス8分野、この組合せが無数にあること、プラスαの小仕事を幾つも持つ多業によりリスク分散が図られていることなど実に多様な農的暮らしが既に営まれていることが分かった。農山村での小仕事づくりをテーマとしてスタートした研究会であるが、既にある農的暮らしを見える化することで、Uターンを志す人たちに応援することができると考え、暮らし見学ツアーを行う「住み開きチーム」、女性目線のガイドブックを出版する「出版事業チーム」、女子の小仕事づくりを取組む「あぶく銭チーム」を編成し、ビジネスとして検討を進めている。眉間に皺を寄せて悩みを語り合うことも必要かもしれないが、楽しいことを「乗り」で進める先に持続可能な農山村の生業のヒントはあるように思う。（HP「地域スモールビジネスの創出」参照）

イベント情報

4/5 (日)

豊森なりわい塾公開講座 2015

「これからの社会のカタチ〜何を大切に生きていくのか」

【日時】4月5日（日）13:00〜17:00（開場12:30）

【場所】中部大学名古屋キャンパス 6階大ホール（名古屋市中区千代田5-14-22 JR中央線「鶴舞」駅名大病院口北口すぐ、駐車場なし）

【内容】●小田切徳美氏講演「田園回帰〜新しい地域と社会のカタチ〜」●塩野米松氏講演「手業の心、職人という生き方」●トークセッション「これからの社会のカタチ」●豊森なりわい塾第5期 説明

【申込締切】3月31日（火）18:00まで【入場料】無料

【WEBでの申込】豊森ウェブサイトの申込みフォームにて

【問合せ】豊森なりわい塾事務局 公開講座担当

名古屋市中区代官町39-18 日本陶磁器センタービル5-D（特定非営利活動法人 中部リサイクル運動市民の会内）

TEL 052-936-0511 FAX 052-982-9089 info@toyomori.org

URL <http://www.toyomori.org>

4/26 (日)

ツリーハウスをつくらう！

〜世界にひとつだけのボクたちの秘密基地！〜 season2

【日時】4月26日（日）10:00〜15:00

以降2016年3月まで、月1〜2回程度開催予定

【場所】豊田市東萩平町（安藤宅裏山）

【内容】木の上に登ったことあるかい？

木はボクたちにこっそりと遊びの楽しさを教えてくれるんだ。木と共に、木を活かしながらボクたちだけの秘密基地を一緒に作ろうよ！

【参加費】12,000円/1家族（初回のみ）2016年3月までの月1〜2回程度の参加含む※事故等はすべて自己責任です。

【定員】30家族（先着）

【服装など】山で作業できる服装、昼食持参

【主催】あさひ薪作り研究会

【申込】新規会員は4月1日から受付、継続会員は只今受付中 問合せ先に、氏名、性別、生年月日、住所、電話番号を電話またはメールで申し込み

★申込締切4月20日（月）17:00まで

【問合せ】090-4790-9364

kashimayarigatake28@docomo.ne.jp（安藤）

その他の情報はセンターHPをチェック！

<http://www.oiden-sanson.com/event/>

生業（なりわい）

センター長の
ミライの
フツーに向かっ
て！

センター長 鈴木辰吉

3月8日(日)、スカイホール豊田にて、「新☆豊田市10年祭」とよたのチカラ！満サイ展」が行われ、多くの来場者でにぎわいました。「新☆豊田市10年の取組功労者感謝状贈呈式」において、農山村部では、「豊森実行委員会」(株)M・e a s y “千年持続学校”など、多数の団体がこの10年の取組についての感謝状を受賞しました。



感謝状贈呈式の様子

新☆豊田市誕生10周年プロジェクト 新☆豊田市10年祭 とよたのチカラ！満サイ展



まちなか
MACHINAKA

2月16日(月)、名古屋外国語大学の学生さんが、おいでん・さんそんセンターが昨年行った大学生向けのインターンシップの取組を知って、ゼミ合宿で同じような取組をしたいと声を掛けてくださいました。一日目は、(株)M・e a s yの戸田さんの話を聞いたり、旭地区笹戸町の皆さんと地域を見て歩いたりしました。翌日は、農山村の課題解決策をグループワークで検討しました。こういった研修により、地域の方にも学生さんにも、お互い新しい発見があると良いと思います。



左/旭地区笹戸町を散策



右/グループワークで考えた農山村の課題解決について発表する学生

名古屋外国語大学ゼミ合宿



旭
ASAHI

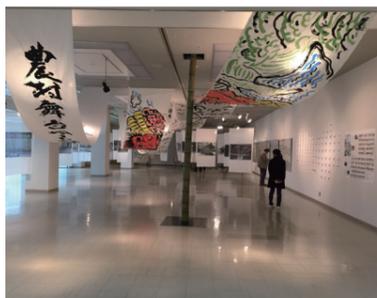
農村舞台アートプロジェクト フォーラム



まちなか
MACHINAKA

3月15日(日)、豊田市民文化会館で行われた農村舞台アートプロジェクト・フォーラムに参加しました。これは、豊田市に84ヶ所も確認されている農村舞台とアートの可能性を探るフォーラムです。13日(金)から、同会館の展示室でアート作品が公開され、15日(日)の午後からは、ライブとシンポジウムが大ホールで開催されました。

アート展示では、これまで展示されてきた作品を農村舞台という場と共に感じていただく工夫をした展示が行われていました。ライブでは、市内外の豪華なアーティストによるパフォーマンスやプレゼンテーションが行われ、農村舞台の更なる可能性を探る試みとなりました。シンポジウムではパネラーに、瀬戸内国際芸術祭を手掛けたアートディレクター「北川フラムさん」や、フェスティバルトーキョーの初代プログラムディレクターの「相馬千秋さん」と、ジャーナリストの「奈良部和美さん」を、モデレーターにはニッセイ基礎研究所の「大澤英雄さん」が登壇し、農村舞台という場の力、舞台と観客の関係性など、本質に迫る対談が行われました。今後の展開が楽しみに内容の濃いフォーラムでした。



上/アート展示の様子
下/シンポジウムの様子



コーディネートスタッフ
とよた都市農山村交流ネットワーク
鈴木明日香

おいでん・さんそんセンター
スタッフミニコラム
File.4
『暮らし』が魅力

3月16日、杉本町でとよた都市農山村交流ネットワーク主催の「農家民泊研修会」が開かれました。講師の井上弘司氏のお話は、共感できることが多かったです。「グリーンツーリズム」体験を用意”ではなく、お客さんが自由に考え行動できる場を提供するということ。田畑や古民家といった里山の暮らし・景観や自然、地域の人との交流、地域独自の食べもの、それらは農山村の観光資源であること。地域内でやりたいことを共有する、若者と女性に活躍してもらう、ということ。何度も来てくれる人を大切にすること。居場所があれば通ってくれ、移住につながることもあります。色々と再確認することができた一日でした。

2日目①ターン・澤田さん宅



買う暮らしから、作る暮らしを目指し移住された澤田さん。米と野菜を育て、加工品を作り販売しています。

取材を終えた皆さんに、印象を伺ってみました。

今回の取材で印象に残ったのは、移住者を迎え、定着させる豊田市の「システム」です。システムを支えるのは、空き家情報バンク、おいでん・さんそんセンター、移住者のコミュニティ、そして地域の方々の熱意。その連携だと感じました。豊田の前に取材をしたアメリカでは、田舎に農園付き団地をつくって定年後の移住者を受け入れていて、現状では、韓国もその方向に向かっているそう。しかし豊田では、若者が山村の集落に入ってきて、学びながら暮らしている。こちらを目指すべきではないか、と思いました。

韓国で3月に放送されるそうです。どんな反響があるか楽しみです。(日本での放送の予定はありません)



2日目③里山くらし体験館“すげの里”

管理人のお話を聞いた取材スタッフは「田舎に通って農作業や料理を教えてもらったり、宿泊もできる場所があるのは素晴らしいですね。」と言っていました。

上石津まちづくり協議会視察受入



旭・足助
稲武
ASAHI
ASUKE
INABU

2月21日(土)、岐阜県大垣市上石津町から「上石津まちづくり協議会」の方々が、移住・定住の取組の視察に来られました。足助地区にある里山くらし体験館「すげの里」では、薪ボイラーなどを見学。旭地区にある福蔵寺では、移住者である戸田友介さんの取組についての話と、おいでん・さんそんセンターから「農山村の現状と課題」の講座を聞いていただきました。昼食は稲武地区に移住して夫婦で家具工房を営む松島知美さん



上/すげの里を見学
中/宇宙(そら)の家について名古屋大学高野教授より説明
下/旭地区東萩平町で移住・定住の取組についての説明

の手づくりお弁当。午後は、奥フグリッドの「宇宙(そら)の家」を見学、最後に、旭地区敷島自治区(東萩平町)で空き家発掘や移住者を受け入れるための活動をされている方のお話を聞いていただきました。参加者の方からは「情熱のある地域の人たちの言葉が素晴らしい。全てに感銘を受けた。」「移住している人は、共通の雰囲気がある。私の世代はまず経済を考えるのが普通だと思っていたが、彼らは人

の素晴らしい生き方、自然のまま、あるがまま、しかし、人とのつながりも重視しながらの生活を求めているようである。移住定住に取り組む考え方を変えないといけないと思っ

た。」「地域の受入れ体制として、人口を増やすより人材を増やす!と聞いてなるほどと思った。」「空き家対策について、やはり中心になる方の努力がいかんにか大切かを感じました。」などの感想がありました。